

# 『おもてなし』活動による地域活性化 忍城おもてなし甲冑隊&行田おもてなしガールズ隊



行田市環境経済部観光プロジェクト推進室 室久 一英  
行田市総合政策部秘書課 岡島 有希

## 1 行田市の特色

行田市は、利根川と荒川に挟まれた肥沃な沖積地にあり、東京都心から約60km、埼玉県北部に位置します。

水と緑に恵まれた行田市には、古くから人々が暮らし、いくつもの時代を通じて、様々な文化が栄えてきました。国の史跡に指定されている埼玉（さきたま）古墳群やその一つである稲荷山（いなりやま）古墳から出土した国宝「金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）からは、古代文化のロマンが香り、再現された忍城御三階櫓（おしじょうごさんかいやぐら）やそこかしこに残る神社仏閣などは、落ち着いた城下町の風情を今に伝えています。

行田市では、平成20年度を初年度として平成29年度を目標年次とする「行田市観光振興基本計画」を策定しました。観光資源を活用し、市民の「おもてなし」の心とともに観光産業の振興に向けた新たな取り組みや魅力を生み出す都市の形成などを通じて、市内外の方々が『行田市を愛し楽しむことができるまちづくり』を目指し、様々な施策を進めています。

過去3年の入込観光客数は、平成19年1,082千人、平成20年1,023千人、平成21年1,111千人となっています。（商工観光課調べ）

より一層の誘客と「また行田に来たい」と感じてもらえるための新たな取組として「忍城おもてなし甲冑隊」と「行田おもてなしガールズ隊」の活動を紹介します。

## 2 忍城おもてなし甲冑隊

### （1）経緯

歴史小説「のぼうの城」（和田竜著・小学館）がベストセラーとなり、さらには映画化が決定したことで作品の舞台となった行田市では観光客が大幅に増加することが見込まれます。そこで、行田市では平成22年度に「埼玉県ふるさと雇用再生基金市町村補助事業」を活用し、失業者の雇用を創出するとともに行田市を訪れる観光客に対する「おもてなし」と行田市の魅力を多くの人々にアピールするため、『のぼうの城』を核とした行田市魅力アップ事業を実施することとし、新規雇用者12人による行田市観光PR隊「忍城おもてなし甲冑隊」を結成しました。



〈忍城おもてなし甲冑隊HPアドレス〉  
<http://oshijo-omotenashi.com/>

### （2）方策及び実施状況

忍城址を拠点に、観光客との記念写真や演舞の披露などの「おもてなし」活動を行うほか、首都圏各

地のイベントなどで、行田市の観光スポットや名物グルメなどのPR活動を行い、HPによるブログで行田市の魅力と新しい情報を常に発信しています。

これまで（平成22年7月～平成23年9月）に忍城址での記念撮影は7,835回、演舞披露は148回、忍城址を中心とした市内での「おもてなし」日数137日、東京都内や横浜市などをはじめ、市外での観光PR活動は34回に及んでいます。

また、忍城おもてなし甲冑隊オリジナルかぶと折り紙、市内ウォーキングマップや文庫「のぼうの城」に差し込むしおりを作成したほか、鎧の着付け体験、市民を対象とした「おもてなし」意識の向上に係るセミナーなどを開催いたしました。

### （3）特徴

忍城おもてなし甲冑隊は、小説「のぼうの城」にも登場する、甲斐姫（かいひめ）と城代の成田長親（なりた ながちか）、成田家3家老である正木丹波守利英（まさき たんばのかみ としひで）、柴崎和泉守（しばさき いずみのかみ）、酒巻朝負（さかまき ゆきえ）とこれらをサポートする足軽7人を含む総勢12人で編成されています。

忍城城主・成田氏長（なりた うじなが）の長女であった甲斐姫は、武芸に秀でた「東国一の美女」と呼ばれ、また、城代の成田長親は、戦国時代末期、石田三成の水攻めにも屈せず城を守り抜いたというエピソードが伝わっています。

甲斐姫と甲冑を身にまとった武将たちは、行田市内外での観光PRや週末の忍城址を中心に甲冑を身に着け、記念写真や勇壮な演舞を披露するなどの「おもてなし」活動を行っています。



艶やかに舞う甲斐姫の演舞

### （4）成果

忍城おもてなし甲冑隊の人気は全国に波及しており、その活動状況は多くのマスメディアにも取り上げられ、平成22年度（7月～3月）は広告換算金額にして2億2千万円の宣伝効果がありました。

忍城おもてなし甲冑隊を目当てに訪れる観光客は1千人を超える日もあり、遠くは北海道や山口県からお越しになられた方もいます。行田市が平成23年6月から同年10月までに忍城址を訪れた観光客にアンケートを行ったところ、749人（年齢・性別を問わず）の方から回答をいただき、行田市に来たきっかけとして「忍城おもてなし甲冑隊に興味があった」が全体の30%を占めました。「小説『のぼうの城』を読んで」は全体の20%で「忍城おもてなし甲冑隊」が小説「のぼうの城」を上回る結果となっています。「忍城おもてなし甲冑隊に興味があった」と答えた人の各割合としては、【男女別】男性25.3%、女性74.2%、無回答0.5%、【年齢別】20代までが41.3%、30・40代が45.3%、50代以上が12.4%、無回答0.9%、【地域別】埼玉県内66.2%、1都5県22.7%、その他の県11.1%となっており、圧倒的に女性が多く、年齢別では40代までが86.6%を占めていることが分かりました。また、「今回訪れる観光施設」についてアンケートによる複数回答を求めたところ、回答数718人、1,817か所（無回答31人）であり、1人あたり平均2.5箇所を訪問していることが分かりました。忍城址内

にある行田市郷土博物館では入館者数が前年度比27%増となるなど、忍城おもてなし甲冑隊の観光PRの効果が各施設の入館者の増加に寄与しているものと思われます。

現在では、忍城址には観光客以外に武将コスプレヤーや「歴女」と呼ばれる若い女性が大勢訪れるようになりました。これは、若い女性を中心に広がりを見せている戦国武将ブームと忍城おもてなし甲冑隊というイケメン武将たちや姫、足軽たちによる「おもてなし」の相乗効果によるものではないかと思えます。

忍城址を訪れる観光客の増加に伴い、行田市商店会連合会では、週末の忍城址に特設売店を開設し、忍城にちなんだ新商品や名産品の販売を行っています。また、(社)行田青年会議所では、忍城をシンボルに「元気な行田」を全国にアピールするため、忍城内模擬結婚式や実際に土俵を造り小学生によるわんぱく相撲大会忍城場所を開催するなど、「おもてなし」意識が向上し、地域が活性化しつつあります。



忍城おもてなし甲冑隊 いざ!! 出陣!!

### (5) 苦心した点と打開・解決方法

忍城おもてなし甲冑隊は忍城址を拠点に活動していますが、春や秋のイベントシーズンには出演の依頼が重なるなど日程の調整に苦慮いたしました。そこで、行田市の観光PRにつながるイベント出演を優先しております。

### (6) 今後の課題と展望

観光客は待っていても来てくれませんし、ある程度の満足感が得られなければリピーターとなって再び訪れてくれることはありません。新しい話題の提供と変わらない「おもてなし」を続けることが大切であると感じています。現在、忍城おもてなし甲冑隊が披露する演舞は15演目を超え、リピーターの獲得に努めています。

今後は、市外でのPR活動の範囲を広げて観光客誘致の推進と忍城おもてなし甲冑隊が作成したウォーキングマップを活用しながら市内中心部の見どころのガイドを行い、観光客の市内中心部への回遊を促すことで、観光客の滞留時間を1.5倍から2倍にしたいと考えています。

## 3 行田おもてなしガールズ隊

### (1) 経緯

行田市では、平成23年9月に「関東B-1グランプリin行田」が開催され、平成24年秋には映画「のぼうの城」が公開されます。

行田市が全国の注目を集めている今だからこそ、女性のパワーで大好きな行田市をもっと盛り上げたいと、行田おもてなしガールズ隊は平成23年2月にメンバーを募集しました。そして、「行田市にお越しいただいた方に喜んでもらえるような心を入れたいおもてなしをしたい!」、「行田市を多くの人に好きになってもらいたい!!」という志を持って集まった市職員の女性9人で結成しました。

主な活動として、イベントへの参加やブログでの情報発信をしています。様々な活動を通して、「おもてなし」の心を身につけると同時に、メンバー自身も成長することが目標です。



### <行田おもてなしガールズ隊のHappy☆Blog>

<http://ameblo.jp/omotenashi-girls/>

## (2) イベントへの参加

初めての活動は、平成23年5月に行われた「まちをゴシゴシ清掃活動」。まちをきれいにすることは、行田市に住む方に対して、行田市を訪れた方に対して、「おもてなし」につながるのではないかと考え、このイベントを選びました。

次に、同じく5月にはNPO法人行田観光物産会主催の「行田産食材を使用した新商品の試食会」に参加し、女性目線からの意見を提案させていただきました。食材を通して地域のことを学ぶことで、郷土愛が育ち、「おもてなし」の心を養うことにつながりました。

また、6月には「田んぼアート田植え体験会」、7月には「行田浮き城まつり」で受付等のお手伝いをしました。イベントを通してたくさんの方と出会い、触れ合うことで、笑顔のあいさつは「おもてなし」に欠かせないことを改めて学びました。

さらに、9月には「いのちを守る森づくり親子植樹祭」に参加し、参加者と一緒に植樹を体験しました。豊かな自然を残すことも、未来への「おもてなし」につながっていくと思います。自然に対する感謝の心を持つことも大切なことだと実感しました。

同じく9月には、「関東B-1グランプリin行田」が開催され、2日間出展団体等のお手伝いをしました。出展者の方々の地元への愛情の深さを感じたことによって、訪れる人を温かく迎え、行田市の良さ



### 「まちをゴシゴシ清掃活動」街も心もピッカピカ ☆シ

をもっと多くの人に伝えたいという思いがより強くなりました。

## (3) ブログでの情報発信

行田市を全国にPRしようと平成23年4月からブログを始めました。行田の美味しいグルメや行田産食材を使ったレシピ、市内のお勧めスポットなど行田市の魅力はもちろん、美容や健康など女性の視点から情報発信していることも特徴です。常にアンテナを張って生活をしていくことも、時代を掴んだ「おもてなし」をするために必要なことだと考えます。

## (4) その他の活動

女性の視点を生かし、うちわやTシャツ、イベントで使用するチケット等のデザインを依頼されることもあります。自分たちのデザインがまちの役に立っていることは嬉しい限りです。

また、イベントに参加する際、自分たちでデザインしたお揃いのTシャツを着て、一緒に活動するのも楽しみの一つとなっています。

## (5) 今後について

平成23年7月に新メンバーを加え、「行田おもてなしガールズ隊」は18人になりました。

女性には、人生において様々なステージがあります。私たちは、今しかできないこと、今だからでき

ることを大切にしたい、そしてもっと人生を楽しみたいと思っています。

「かわいく・楽しく・元気よく」をモットーに、行田でハッピーになってもらえるように、これからもみんなで力を合わせて頑張りたいです！

今後、この「おもてなし」活動が更に広がり、地域や職業に関係なく、全市民で「おもてなし」ができるまちになることが私たちの夢です。

#### 4 最後に

以上、「忍城おもてなし甲冑隊」と「行田おもてなしガールズ隊」2つの「おもてなし」活動を紹介させていただきました。その共通点は心から自分のまちを愛し、訪れた観光客に対して心を込めて「おもてなし」を行っていることです。

「忍城おもてなし甲冑隊」や「行田おもてなしガールズ隊」の「心を込めたおもてなし」活動が各方面に広がり、市民の郷土意識が高まるとともに観光客に対して楽しく安らぎのある滞在時間を提供したいと思っています。



「おもてなしの心」で私たちが皆様をお待ちしております

## 職員の声

### ところ変われば

埼玉県総務部人事課付 羽鳥 順子

自己啓発のための読書は嫌いだった。仕事で必要なスキルや知識は、仕事を通じて身に付ければ良いと思っていた。ビジネス書や教養書を読んでいる自分を想像すると気恥ずかしくもあった。周りの同僚や先輩から自己啓発をしているという話を聞いたことがほとんどなかったからだ。

それが今では、その類の本が部屋の本棚に並び始めている。きっかけは1年間の民間企業への派遣だった。

派遣先の企業では誰もが良く勉強していて、自分の得た知識や考えをオープンに伝え合っている。例えば、若手社員は自主的な勉強会に参加し、課題図書を読んで意見交換を行っている。朝のスタートミーティングでは、スピーチ担当者が自分の読んだ本を紹介することが度々あった。社員研修では2週間に1冊のペースで本を読むことを勧め、自己啓発の計画書を具体的に作成させている。ある若手技術者は、サマータイムの導入で早起きの習慣がついたので、早朝の読書を日課にしていると言っていた。

そんな人たちの中に身を置いていたら、自己啓発をしていないことの方が恥ずかしい。勉強会の課題図書から始めて、研修で推薦している図書を中心に読み進めている。成果のほどはともかくとして、環境が変わるだけで自分の行動も簡単に変わるものだと実感した。元の環境に戻っても行動は元に戻さずに、身に着いたこの習慣を維持したい。

最後に、民間企業に派遣されてからの変化をもう一つ。始業20分前までに出勤するようになり、1日のスタートがぐっとスムーズになりました。